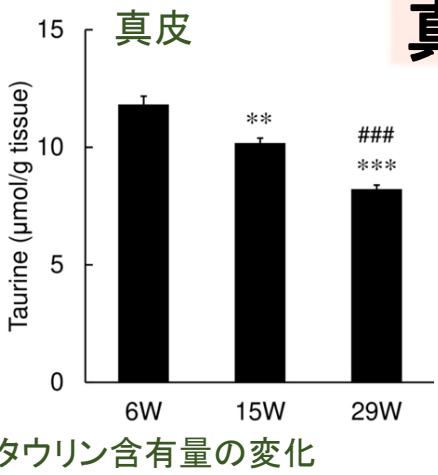
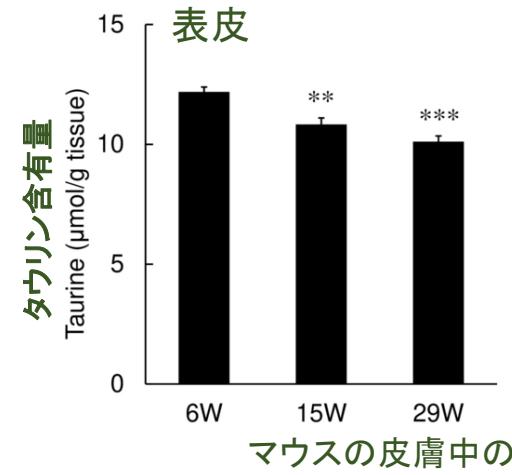


# 真皮のタウリン不足は皮膚のシワやたるみを助長する

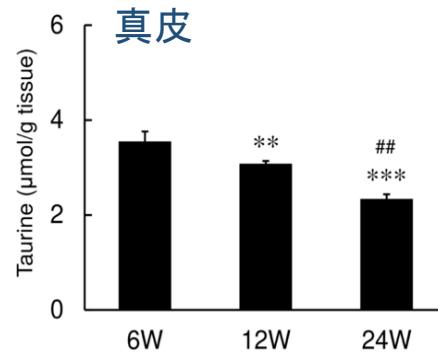
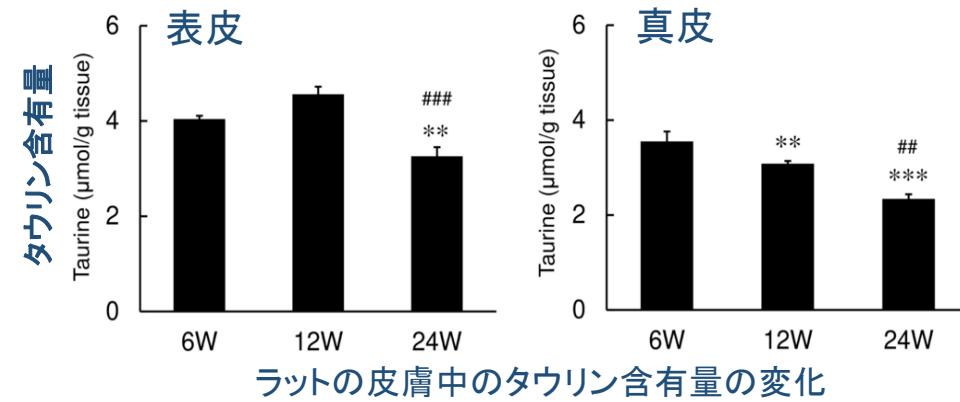
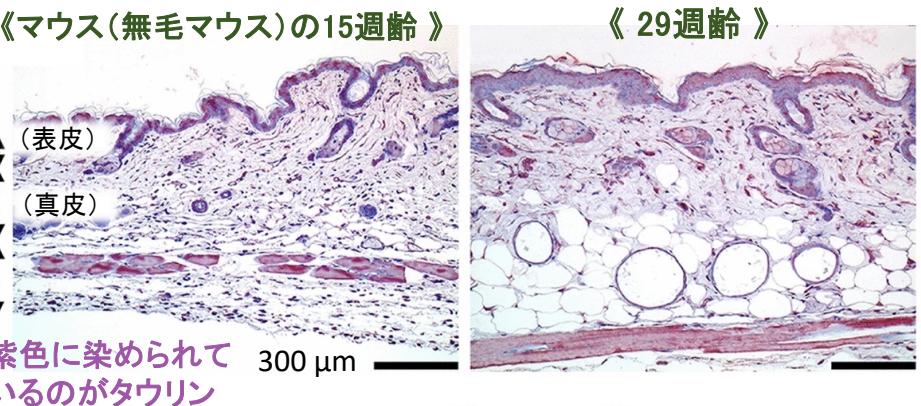


◆マウス(無毛マウス)の15週齢はヒトの20代前半、29週齢はヒトでは30歳前後に相当する。

◆15週齢、29週齢と、加齢に伴って皮膚のタウリン含有量が減少していく。

◆表皮よりも真皮の方が、タウリンの減少が顕著である。

Epidermis  
Dermis  
Subcutaneous layer



◆ラットの12週齢はヒトの18～20歳、24週齢はヒトでは25～30歳に相当する。

◆表皮では12週齢でタウリン含有量は少し増えるが、真皮では減少し、24週齢では特に真皮のタウリン減少が顕著である。

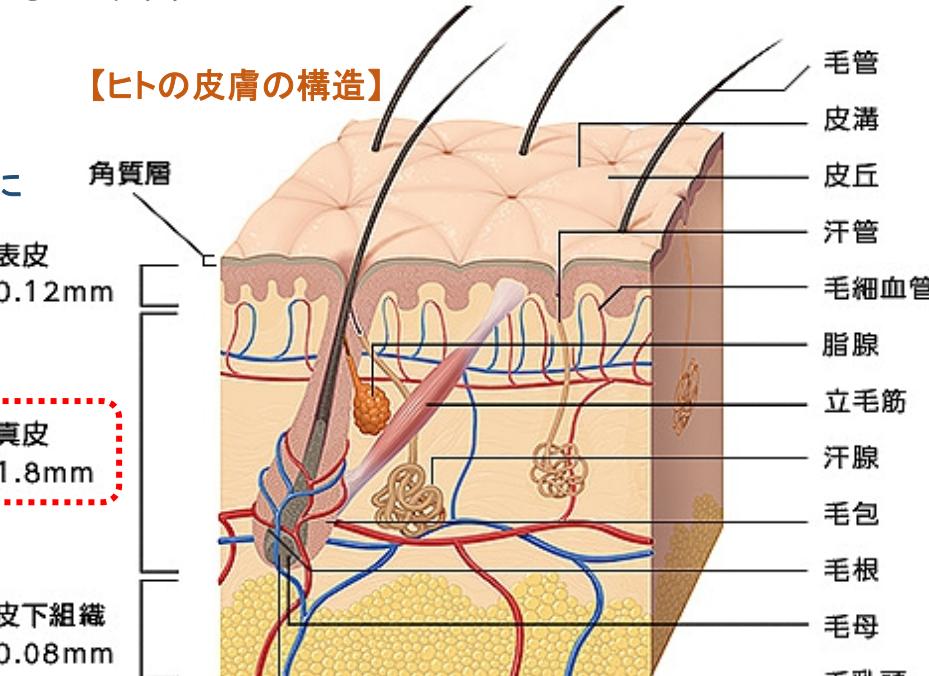


◆マウスでもラットでも、特に真皮におけるタウリン減少が顕著である。



◆35週齢のマウス(ヒトでは35歳前後)にタウリンを飲料水に混ぜて(3%濃度)、4週間にわたり与えると、表皮のタウリン含有量は大いに増加したが、真皮では殆ど増加しなかった。

◆真皮のタウリン含有量が回復しない理由としては、血流供給・浸透性・細胞の取り込み能力が低いことが示唆される。



## 【対策(真皮のタウリン濃度を回復させる方法)】

- ① 血流を改善する(最重要)
- ② TAUT(タウリントランスポーター)の発現を維持する
- ③ タウリンを“継続的に”摂る(単発では届かない)